名所古筆

へ 5
1039

~5
1039
門 ヘ 145
號 1,039
卷

名所方角抄
宗祇法師作

帝國圖書館藏書

名所方角抄目錄

山城 卅一
近江 二十二
美濃 四十三
伊勢 四十六
尾張 五十四
遠江 六十
伊豆 七十二
伊賀 五十三
參河 五十八
駿河 六十四

甲斐 七十四
武蔵 七十八
上総 八十二
常陸 八十三
信濃 八十五
下野 八十八
相摸 七十四
安房 八十一
下総 八十二
免除 八十五
上野 八十七
出羽 八十五

陸奥 九十
河内 百六
摂津 百九
淡路 百八
讃岐 百九
土佐 百九一
大和 九十四
和泉 百八
紀伊 百九二
阿波 百九九
伊賀 百二
義絶 百三

播磨 百三十五
備中 百廿六
安藝 百廿八
長門 百卅
豊後 百卅三
日向 百卅四

薩摩 百卅五
大隅 百卅三
豊前 百廿九
筑後 百廿七
肥後 百廿五

筑前 百卅五
肥前 百五十一
壹岐 百五十五
丹波 百五十七
但馬 百五十二
伯耆 百五十三

籠投 百卅
肥投 百卅四
對馬 百五十五
丹後 百五十九
因幡 百六十三
出雲 百五十一

石見 百六十四

美濃 百六十六

加賀 百六十七

越中 百七十一

佐渡 百七十五

越後 百七十九

隠岐 百六十五

越前 百六十七

能登 百七十一

飛騨 百七十九

来る廿八日

[illegible]川 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

いはくら　　の
岩倉　小野　峰　山
岩倉山とて　東續きのこと白川の
西にて同名　又糸の小にも
ありそくら
花落鐘
栗田口　栗田山　栗田口と三条通
おはらにそ　ナ稱するより　勅願寺の
あるらとそ　雲のあわづと詠う

おはら
山端　山端里　高野之　歌枕
おはら　川中　名所
云ふ有

鳴滝　名所
こゝ　ふるくより　山科の
とくに　有　山川　清水　東巻
よりハ　南よりくる　又

ひえの山の西(にし)さうて坂の中程より高
の滝と云(いう)同(おなじ)名(な)あり今(いま)よりさいれて
七(なな)〳〵そうく續(つゞ)けり
お坂(さか)の麓(ふもと)よりうへ
くさん 高野(たかの)山(やま)の松(まつ)なりうち
花山(はなやま) 院(いん)の桜(さくら) 遍照(へんぜう)の四季(しき)うつり
又(また)春(はる)風流(ふうりう)もあり云(いう)ふ名(な)岩山(いはやま)
さ流(なが)り又(また)山清(やまきよ)水(みづ)のうつくしさ
なり云(いう)ふ岩山(いはやま)より近(ちか)一(いち)岩山(いはやま)より

栗(くり)栖(す)野(の)

栗栖野(くりすの)

栗栖野(くりすの)

栗栖野(くりすの

…の池と云ふあり
…みなそこ
…深くそこ
…藻の澤 大…
…より二里あまり
…清水 …
…とへだてる…
…侍ふ者皆…

…池と云ふあり
…その茶つぼ
…於中納言
…方
…の梅原
…よくまもる
…京
…山あり
…を
…の…
…一丈計の石垣
…手
…勅
…使

…の…
…御
…あの
…山
…名木
…ふ
…山と云ふ
…来
…計
…迎
…清水
…の
…ときの
…ぬ
…七月二
…玉
…ふ
…ふり
…にわかに
…新田義
…山王の
…来社
…新田義

清みくり南之
子義朴徒 もりけるそ 板の字よ 云ふ話て
望に旧春の ふるしよそみる 中尓吟尚
稲荷山嶽杉 山嶽杉 杉孤澤り社
八蘇うろこ 二月初午より
訪日右今 経営をとり 萬之
拾遺雑 滝のみくりてよ ふいりも
十首の 迫之ふるーと思ふん 澤今氏
源若 山 登里 源若山とも いふり

山つくさより 稲荷 採傳り 嶽の峯云
不浄多のくら 南より九条の 西之
古今東鑑 浄くさの 採一心わろ ふ
同雑 ふそて 傳ふ ーさとそいふ 業平
一辰已今
伏見山里沢津 源若の 南里て

[illegible]の下又蔵原の伏見と云ふ所
伏見津と云ふ所より舟にのりて
より舟にのりて

冬の雪風ふきて寒き日
都路を伏見の沢よりわけこえて
木幡山里実に河ありて
橋なくて渡りがたし
里ちかふ河ありて橋
そのひろき河と云ふ
ありて

無名抄

檜造る山城の木幡山
都より
大山のより宅
渡りより宇治より近
夜ふけ雨降りぬ
古今秋
山のいろそ
西行法師
中くまその神

人丸

生東之書

宇治 山里 行橋より少へ
八木西へ行 ゝり山吹の津尾
約四ツ半 ゝり東へ又橋の川幅
好き橋の小流 ゝ橋四本の名木 ゝり
又江戸名所と云不宇治と本陣の中
数ノ大松の森へ入 ゝ山もと宇
治の内 ゝり川ハ宇治川の流 ゝり来 ゝ宇
ヤ二里 ゝり橋幅 ゝり東の名木
ゝれも宇治の内 ゝ

宇治川ハ近江の湖水 ゝり来 ゝ宇
治橋 ゝり宇治川の流 ゝり尾 ゝ
なし ゝり宇治の名園 ゝ秋
長雨 我庵ハ宇治橋下
世 竹田 ゝ家 ゝり
九条通 ゝり巳の方
淀 ゝ家 ゝ
竹田のつゝ

…山田…里…秋の山田
…池…行…
…一…
…渡秋…行田…
…渡…里…衣…
…渡川…ひと…
…衣…
…の…渡…杜…雨…

よい女郎あり
八幡山さくらの雑木ぬくまりて
春となれば「咲きそめし」梢の花の枝 枝は衍字歟
女郎もむらむらとうそもうろの雪ふり
男山の
狩野里 波うてば
着る人ゆくえ荒磯より来る
やや寒ろ
傾城ぶり
なよやかに
らいらいさやは

木津川 里 波 山吹の咲き
妹の里
はるばると云ふ
泉川 木津
山ぶき一本
野もり 此方
奈良 奈良

奈良と云ハ名のみ
奈良ハ九里経之此里ハ六里之
奈良旅籠ハ風さ
柞の森　原
柞模様　山の裳
いろ〳〵の　森
岩田小野　柞
岩田のもみ

もろ
こしとよめるも山城なり山城
宗もり三里ばかり北中に久我と
宗有こゝの森
井出
あまたれ松
小倉山
名所
水無瀬 是より三里 小倉山
ハ西ノ方 嵐山
ゆきゝの里
ゆきゝ川

桂川 是より西ノ方 桂川
ゆきゝの里より桂の里にかゝる
桂川
桂の里 里有七条ゟ西ノ方
ゟ桂川まで
桂川
桂川
桂の里ゟ西ノ京へ
桂川
桂の里ゟ西ノ京へ
桂川
桂の里ゟ西ノ京へ

の湯あり
ありより
大宮
奈良坂之 神代のこと
小塩山 大泉
黒木つくり 新嘗
当後り 祭
わり 吉野
いつれも大宮の

と云ふ 西は
業平
おかり 平
不 これも
方をこれに申
わらうさうら
えうり 頃
松尾 祭
入ト

わたりもり
渡月橋　大井川にかゝる
とりのみやしろ
嵐山　峯　桂　寺　花　紅葉
渡り　桂屋より
条の通り
今宮　吹り
多お
亀尾　山　小倉の麓　嵐山の

せり其の向おうの東京のうち
ようり街は本堂の南のり
風雅体 多くこれ
梵鐘 梵字のくり来たるひの恩の勅額
なるべく是
分をうひ氏の池にて
ふ人今本
▲成美ノ句
阿太子ゟ 書掛
五ハりこの月代
接り尓月の梅乃里
氏名りゟ乃中

東西ノ溝堀ゟり田里ゟり
丹波の境之ゟ
の南西の村ゟ丹波
帝ゟ尾の事ゟり
ーたり

その景ゟ成ゟ
月林ゟ如ゟ月の梅ゟ
梅ゟ如ゟ
梅ゟ如ゟ
ゟ加山 源頼ゟり寺ゟり

ちれて斗垣をくゞり又小野とト野をへ
一説あり
紙屋川 小野の西なり小野より流
るゝ小川と社頭より一町ばかり
辛野のひろき
[illegible]
[illegible] 經のくりよ
辛野 神社 森 松山花小野の
西なり中ごろ三条斗北の仁油

末をうけて油屋にて
今ごろ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小舎

左大臣一ちやうりの社
ひと日君
斎院と
小ノくるかな
よこそ一里
ふり
神こそ
我のみ

権大納言
ものやそ
書給ふ
なり細川
小野
茅渟
秋
白
雪

源氏

松の濱
一条より一里半ばかり
濱邊を行
松むろの濱
汐干の潟
迫有 松の濱
又一里半ばかり
なごの濱
千載集
清滝より
大原山
里より西の方
勝源寺
なごの
西の方野

ひえの山下横川の禁ちう
小野（地名）夕雪ふる
いなおほせ鳥も
物おもふ
源氏物語よこ雲の性うて
住のえのまつ
いろかへぬ山の
ふうけふ東
みうけふ東
の空ハ雨ふ
雪山世俗よみ
ふり笠
ひえの西坂の禁
横川（地名）ひえの山乃ゆき
ふるさと雪の
ふり
新玉の年立くらしの（天暦ころの名）
三十四

比叡山　大ひえ　たてくけ九郎の屋士と
もそうおひえ　西院と横川との
中堂と又称　まる　松の
松木そう松の　秋の空
くものおもれる　掌　秋空
を古戒堂が　東の四方の名木
いきそ坊のしゃ　西坂本と云
比叡に寄附　の跡　てまつしば
八条より三里　坂本より

…くる…君ら万代
恩澤寺田村より南之津澤寺のお
より一条の通りを…
条の今まふ…入紫蘭…り丈町
計…家并多田沢…条…より宮
お南ら…り小島通り
渡の…
枝川の流に添ひ…
…

本無神社 祭神…
出雲建神 …
之一条京極より…
弓三町 …
条に…
雲の林 雲林院 …
とて一条大宮…
そこに渡の…

[illegible]
来たにて
[illegible]
くりのて
[illegible]
お茶をの
[illegible]
玉中名称
[illegible]
[illegible]
▲浴中人分
中川 小畠
[illegible]

源氏

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
塩竈ト云ハ云々
融大臣の
毎日汲三石つゝ
奥ふかく
[illegible]代ゟ
源氏起ゟ
のゝハゝ汲ゟ
奥別ゟの

ゟ
塩竈
東ゟ
靈大祖
公西ハ洞
公東洞
四祖の
門ゟ
お供ゟ

中ろに長潴とそて社そるの潴
ちそし玉潴とうかいは小家敷の西の中
乃ろに左そそ堂若左そその時
逸そのろうろ行そ之後人
屋敷左そと門よりも北潴ますたそ
樹右を植とそ北潴の高きの之
左ハ樹西ハ植そ北に左拉まそ日ろと
さ柏のちくに
ぶの逸とそ日若つハ茶ろり

日前つハ西方より言中に左く用
日乃心と書そ之潴境
内信所 紫表敷の屋ろ言之潴
の社のく紫やうくいろりなる
とくまそに
ハ清涼敷の西西之又墓乃戸
ちそハ口不そ不の前
植つ不敬つ不書ろり明表たそ
かハ伏たりそ

年中行事
門訓信　大嘗会
宮廷
主殿司
神祇官西門
掃部小八省院
大祓
御使

西近江分

関小川　おはの川　清水ともに奥川ともいふ　井ともいふ

関多く奥まるゆゑにいふ

弱たるに清きによりて

おはの山　奥の山

牧村　能登守

古の関の清水　関の清水

風柳　おはの池　古井

清り渕

おはの湖　湖のさまいと広し

南西より北の方へ十町許突出

て清の世ざきといふ　古の名山の姓名を

都鄙名勝誌曰会下村ニ古井アリ

明田にさらく　もろ共に波なき春

栗津　奥野　野尻　森　ひろり萩

奥まりて栗津ヶ浜ともいふ

勢多　長橋　粟津の南

之橋八西へ行ける

勢多新中　幸ひ松下若ふ　重房

石山　紀貫之　いく世へぬ南の海の亀鶴多き

南之山のまへ

近江湖之石山ハ有名を東へ流れより

此湖の赤橋岩ふり落て宇治へ出

之ゑより八里之勢田と石山の中ニ

十町ばかりふり勢多の橋より東ま

勢多の宿あり

勢多新工　新古今　藤原有家朝臣

大津　里のそこ村雨の過しあとハ湖西八山

名寺町　三井寺　大津の

なり　園城寺と号山井の水よて

手子乃生湯をめぐりて
古木うつそみ山桜
千載新中 花に我とはいつくともなく
滋賀 那古浦 花園 山 浦津
唐崎 大津 山越 山越
かすみこめたる 山より 西 寺
山越乃東の林に園城寺
志賀八郡の名ところ

第一切如来
小関 打出 走井 等ところ
すべり山 山の東面八志賀の郡
ちくに堂 有名なる三尾
寺 聖人 住給ひ 給ふ
ゑんぎ 仏 ありし
産ところ
八幡 社 一社 御
七の社 宮ところ

宇治よりの
の名所
金堂峯
田上川里
初瀬
新田の川や
山田法
矢橋の法

守山は宿
今り迄の
海山の林
海山の池
かゝ隔有
東雅 海山
年へ
海山
まとよ

中に山有て宮あり
わり

没て幾人しらぬ苔の
ほさんとあくれやらん
樟乃木柏 山川もろく
千代経し宝来門樟の枝とり添て 備前路
外面の海をまもりつゝ
栖しの宝をもれ 吾妻乃
笑と住吉山のつゝき

筑摩祭又ちくま川とも云 又淀
乃の系乃芸の恩也石水明
枝閑く来る汐

松をねたむつれなき人の
冬至 淡雪

冬芸社曇の海苔の巻
雪のうち

義法園公
不破山中山寒屋枝ひさし住吉山の宝

千歳橋　霊泉より破れて転がりて
来るところ　本庄駅寺
野と言　不破の関
来る道の中ほどにて
うぐいすの
鶯宿春上　侯人云
不破山とかけ越えて流れ
かくとに

[illegible]
▲伊勢國分
伊神所 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

あたまう神楊さうそう
神の国付くうのの名の
所在き意
京都神の
ふさ
泉川　付三井　左京職
ふさ
動物棲息
泉川水泡を袖にせきりて
人村を垂に杭や巣ふん　右京職
千歳橋　別切橋の名ふさた
いさ法ひふん　千歳橋
井のあ

伊賀　國分
ふさ
みふさ伊勢
あうふあ
心伊賀の国
ふさこ
なのふみ名
排置
森左右

阿波手柔 浦里 みさくじ下津と
云里の南よりの海辺に柔いふ遠保名墓
あり 〔図〕
名所そうわ集に 源雅光
金屋ぎぬ
みちのくにかりくだりて
狩せんとて
ありくほどに
その浦の 高松
森まで十四里 こわしとや
云

行あり是いにしへの湯浅の内之すのまさ
より下津の名里計なり
出あり此里にいにしへの名里計なり又高
ありこれより
紀伊国名所 下津より一里計小
名より世保ノ浦の山の
ありこれより一里計小
ありこれより下津の名
東海道の名所二

勝
わつさもり　家里　松もの里
ありそ　浦より　千鳥　中ノ
之浦より　ふきハひろふ　浜へより
ふきのとうの　ころより　ほうへより
後主里　牛に　笠寺と
八幡の　神ハ　ふきの　初ものより
ありそ　より　ハ　笠松　なり

笠寺　ふきのとうの　ころより　ほうへより
濱より　ハ　海老の　ふきの　初ものより
すゝく　ハ　ふきの　ころより　ほうへより
ひつそく　ハ　ふきの　ころより　ほうへより
濁る　西　ハ　海老　ふきの　ころより
桑名の　里　ハ　風里　ハ　西より
一ひら　おも　ふきの　ころより　ほうへより
みそく　ハ　ふきの　ころより　ほうへより

新吉原　風俗　水代明細　里

[illegible]
三河國から
八橋川岩の
町中西小
小川より橋
中ほどより本の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
突刻里 河
此川を橋
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三河の松平
橋もとくけて
橋もとい申すの
そもそものかし
牧の川よ橋あり
活しめりて
すの雪よ
濱名橋
橋もとり三
濱より一里なり
海をかけて
小坂より南西
浦へ
松原
小坂
黄

汐海とも云
海辺也松
もの小
名古海
とて云所
そもとも
俗よりも
名里之
もれとも
汐海
松原
濱
古小濱
所坂
山の小
乃海
所
世
村
原
府中
不
府中

[illegible]の中[illegible]百五十間川として二流
とやうな大[illegible]のうちゆうり西
一濱へ[illegible]れて三里いう汴へ
[illegible]て天[illegible]池と云たり池
田乃やうとも也[illegible]
[illegible]本[illegible]より[illegible]里[illegible]
川[illegible]ひとて[illegible]
[illegible]別[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

作[illegible]中山 [illegible]
[illegible]
不[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一里半海中へ出る
そこより南へ
海のこと
出ること
ことの東よ
山のこと
の向こと

奥津里 河海流
云山有清水
あり南へ海へ流
清水落有

出づ 行程の西
の林之海に
十南と 東方
始まる沢山
名木二里
侍従
行程 大海
其 海
とおいて
なさ 出

吳柄山の麓にありて
濟渡雲氏舍山ありて作乃下五 平聲時
月未滿ときわりて其
續古別 秋六月雲氏を招飲して
鎌倉君山 里ともに山重ねて
東の西の海すゑ山重ねて
若しくとも居ながらに

八百里　小川を渡りて入るの
宿とより郷のみち
の里　第四の里
　　修験
　　の者
　　の
　　の
　　の

▲安房國より細布を貢ず

按ずるに、芳房人の織るところの細布、古昔より貢ずるなり。

千載集 武蔵野の堀ノ内の妻恋ふる鹿の声聞けば秋は限りも悲しかりけり 俊頼

新勅撰 秋の野に妻恋ふる鹿の声聞けば秋は限りも悲しかりけり 俊頼

▲安房國より海人を貢ずるの事

海人

のしあわび 鳥賊 鰒 和布 亦海藻の類 同

名所和歌 安房浦

千載集 わたつみの波路遥けき安房の浦に

▲上総國より漁人を貢ずるの事

漁人

名所和歌 上総の浦

千載集 わたつみの波路遥けき安房の浦に

海士 浦

浮ねする山 浪の

海士の

下総國

鵠沼浦

鵠沼浦 古今入日浦同

常陸國分

神の宮　梅あり　小川あり

播磨風土記曰　揖保郡　枚方里　本名浦上里

雲心　浦波の　[illegible]

[illegible]

新撰姓氏録曰　[illegible]

[illegible]

[illegible]

出羽國なる最上川の源泉
最上川 早川と水合
詩 最上川のわれてくだるみの
いるさかまき月うつり
最上川を同しみなかれの乃
のぞみあまの谷邑
最浮 われてくだるみの
淺於葉之物 世中小

金華表
（かなはなのおもて）

おもひおこせてあまの釣舟のいそぢおほく沖こぎゆくなん

伝文山　里　森　岩　糸浦

なつのひのながきを独あかしつゝ山ほとゝぎす待つるころ哉

新古歌

日くらし勢田の浦さびて雨ふりくれぬ春の入海

（全お重実カ）

詣桜山　恩　森　実　里

（いくえ）

吉野山千本桜入海のうらおもしろき春の夕ぐれ

高家

来村山

（きのむら）

いそべより沖こぎ行舟のかぢの音ものどかなる春の入海

青柳のいとゆふかけてうぐひすの鳴ねにあそぶ春の山里

浪静かなる春の夕ぐれ

契ありてこゝろ通ふ神と人

浪静かなる春の夕ぐれ

来の村山に住ふ人こそ

（こゝろ）

春告鳥宿実、嗚子鳥　しのゝめ

（しのゝめ）

浪静かなる春の夕ぐれ

（深川遊客）

いそべより沖こぎ行舟のかぢの音ものどかなる春の入海

白川関　小野篁
都をりて三十日のそとぢ
りくらし
秋たつ日
名のみ
白川の関　藤原顕宗
白川
旅をしぬ
和泉式部
秋の風

玉川里 初冬

新古今 夕されば汐風絶て法輿の
　　野田の沢水
緒後 こゑうつる楊そよ 九本楊共
　　　

作楽山　江路

三瀧新廟山つゝき
山一ツをへて音羽
絶行のあとへつゝ
大和乃ひとりこそ
里のをくへとゆく
初瀬川ふるのやしろ
さゝのおもてをふく風
山ふかみもみぢのにしき
のりおとしてそをまつそのの

きぬ石を行あひて二本の杉
のもとをすぎ音川のへ
君とまりまやもとより
やまくらくり
あまくらくり音あり
三番久保山おくり
きゝうねの山ゝ山女 桃 初
瀬すりあてあるうり
初瀬雑二 ゝゝ山氏 音もとゝ
大江和言

耳梨山　池　くもり

東雲　耳梨山のうへ　秀久山
　　こひのもなかに　ほのぼのと
明ぬ」　右三の山　東の山にあたる
神振山　ふりつもる雪　山ぬし
神振山　高良山　紅葉　山ぬし
松　山ぬし　霞

神振山　ふりつもる雪　山ぬし
久山　ふりつもる雪　山ぬし
御池　蓮　鴨　雪

雲のうへ　池のそこまで
ひかりそふ　雪　山ぬし

雪　雨山のうへ　雪
伊國へ　雪　山ぬし
みぞれ　雪　松　山ぬし

吉野の那智
雲間川
出雲集
白川の指を
の
桜咲
風
中山
小川

伊吾 那之 浦宿 入江里 江
中程 吉里半 ゝ西 海小
雨降 南八里 浦ゝ 清水西 り
昨朝 支后 而 り 杉原
ゝ伊吾の方 小 清水 り 小
あ ゝ杉原 弟 ゝ 雨降 り
伊吾一里 あ り 小
り杉原の 場よ ゝ 一里
ゝり あ ゝ 雨降 ゝ

中屋
ゝ ゝ ゝ 丸松東宿屋
安信堂 杉原 あ ゝ の 海岸 風 ゝ
雖 雨の二 よ 主子 ゝ り 多 馬 ゝ
降 ゝ り あ ゝ の 亭
新撰三 ゝ 雨 て 降 ゝ 清水 あ ゝ 丸 ゝ 宿 ゝ
ゝ ゝ 丸 ゝ 多 ゝ ゝ
七ツ半 浦 里 浅沢沼 家 海
浅沢沼 お 行 ゝ

六里ニ
拾弐丁
金來ヨリ
武庫ノ浦
小ヶ濱
大田ノ宿
津國ノ
青蓮寺
川
濱川
海川
ヘ
ハ
ノ
ヨリ
ノ
ヨリ
ヘ
ヨリ
ノ
ヨリ
ヘ
ヨリ
ノ
ヨリ
ヘ

用弓一 ちゝりの松 生田の森 いのひさのくさき
布引滝 生田の森 くゝりの松
人丸家雑下 木川 やまなみの
清水山 川 兵庫のみなと
十八町 ちゝり

新勅撰 清水山そこと定めぬ夕風に
なびかぬ方ぞ浅ましき 清水寺方角

幽斎 摂津
幽斎 摂津
幽斎 摂津

判官殿の御館の生田と云
處の方より
玉敷藻夕潟やの西浦をく赤の
ものの
美聖　有名あ
水漆川をたち
とうつり明りあくらふ麻
の子個をく
蓑の池　蓑島より西十町半

漆川の宮より
ゆりり又
けしと云所
慶田濱　此あ
汁更迄此お濱　四洲の濱と
洲の濱とそ
人うさ飛とかな里神境の
慶田濱　濱ふ
里名所圖會

ひおれ須磨浦風に吹つゝろひ名
殘ありける柴の戸
ゆかしき
ひすの
ひかず
ひ
ひ
ひ

紀伊國分

寺より三町餘北へ行つゝ大和路を
通り紀伊の
一丗一里餘り
巨勢寺 付 春日
不明り

玉掛松の名もなくて
前期樂冬 重疊として雪消なき
紀の川 春日の里の西へ流れり

京より三十里之都川よりつゝみ
かたより流れ出る
文政癸酉秋の下旬
松竹
銀剛三味線
奥の院へ一里
又玉川のうち
又玉川
奥の院へ一里
又玉川
又玉川
又玉川

ち

萩の中路を越てくる雲
濃模様 雲りやう
ゆら 雨意のほの
うすの峠ぢ
元よりも

萩代にちらつく
塩干玉妻人

雨意一切雲りやうこと
雲のそら

橋寒山

ゆく秋の雲のゆきゝ
雲の濱 伊勢に風ふり 杉風
雨雲 ゆくての原 ケ月和 雲鳥
入江 ち鏡なし

春庵 赤人

君ゆくと濱ぢ
ゆくれ初うそ

明之 源 菊 松 浪の花

細の浦　攝津
續古今　僧都
らくさの浦　伊勢國
伊勢の海　鳴山を　風早
きのくにの浦　紀伊國
紫の浦　伊勢
伊勢の海　紀伊國

湯のくにあり
あかしの浦　播磨國
夢ノ浦　淡路
山湯そこ八ヶ國
養和國分
舟橋　攝津
名所　攝津國
名所　攝津國

武士章湯門磯丈家かゝ新法板橋
なる海　お海　玄米ふかひ　二百俵
伊勢　毋投よ国名有
この須　杉原丈　紅粉　須賀
場たり
須賀国分
小湾　半宝　車　森より
宮野うの須り
波まより宮城湾丸

より　に別て
須中国分
音須中山　此山　須中の西
城より　音須湾　須中
を通て　第四須中の宮なり
宮音も　往ちく二宝ゆも
社小向　山いさして宮うす
杉もり　細谷川といふも
此山の　須　須ほりも音須

津之國
東成郡（ひがしなりぐん）
細江川（ほそえがわ）の末（すえ）
紀伊（きい）の國（くに）
二荒山（ふたらさん）
吉備津彦命（きびつひこのみこと）
吉備津宮（きびつのみや）
山陽道（さんようどう）
備前（びぜん）
備中（びっちゅう）
備後（びんご）
安藝（あき）
周防（すおう）
長門（ながと）
西海道（さいかいどう）
筑紫（つくし）
豐後（ぶんご）
日向（ひうが）
大隅（おおすみ）
薩摩（さつま）

神崎（かんざき）
吉備山（きびやま）
千載（せんざい）
備後國（びんごのくに）
吉備津宮（きびつのみや）
鞆浦（とものうら）
付（つく）
屋久島（やくしま）

大和（やまと）
吉野山（よしのやま）
岩田山（いわたやま）
千載（せんざい）
備後國（びんごのくに）
吉備津宮（きびつのみや）
鞆浦（とものうら）
付（つく）
屋久島（やくしま）

山重八海ともいひ
橋のてもとは絶ぬる
その意なるべし
[illegible]山　等
[illegible]橋　有
[illegible]
[illegible]
[illegible]

西面ハ法王浮之此仏百年
ろの回廊（ふらう）ろ大鳥居者
汐そて八回廊の下まてそ
ろろり毎天ハ却
ろとゝら砂林此湾の山
波のゆ仲ろゝに
行ありろゝ廉多
号ゝに洗のゆおとて三三立

清ゑに歩そて仏乗六月十七
第ゝ第中仏菩依ろゝ森
壹ろゝろゝ
作伯山 ゑホふ分的巌倍ゆ
この仲ゑハ作伯氏とゝ
いく河汤國分
岩國山ろゝ
ろゝりおに小ゑまり海ゑ又里
小山ゑ門ゑそて也川とゆろよ

里関係あり
あり海多き国と
関係多き国と認めり
彩色は海
機関 大阪 可良浦 勝浦 宮浦
宮後 電戸 世保 ヨリ
そこの港と
宮すべての港と毎年

海をこうろ礼をもり
宮後よい善吉 業の盛の営
海中より出 ふとの
多くの第四の
長崎 ふかん
安政 杉本 豊後
七つの国のみ
そうり

[illegible]
[illegible]浦湾 里 [illegible]
の社極い南向[illegible]
[illegible]奥は平[illegible]
千 湯の二峰と[illegible]
の湾[illegible]
[illegible]汀[illegible]
[illegible]間実 門口[illegible]
の実[illegible]

[illegible]
[illegible]吳國[illegible]海
[illegible]
おり一里の[illegible]
[illegible]
の地よ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

のあとゝゝり
慨言ふべく
なり

橋人のうた
注来ゆく
砌そうまく
うまく
まゝの細
う寒ゝ砌

山とゝふ八
ね跡の眺望

雨湯そこ
ゝ茶園分
頻秋 祢ゝ
赤坂ゝ小倉
里ゝ
蓑橋 叩ん
一里ゝ
月西ゝ

ア岡
寺渡 長渡
の
天
の
ゝ
岡
の赤坂
ゝ

豊受氏の源山氏新
しらや面にあてめれてゐるん
柴津山 付 笠津
古くは柴津山ともいふ
峰 ここも海より棚なす小丹
浦の山 海まで 同名多 みさく
棹弓 笠つかまつるかるり
宮作文 南
へ筑赤山 もり 出よを

新宮作成
篠津天皇の御代 和気清麻呂宇
佐つかはされ帰りまゐりける時詠給
一 海ならず たゝふる水の
みのうへにちとせをかけて
なほすめる 豊国の
笠浪国分
赤前小海 名也
その実より作るにうるさ
七里なり

日向國分

日向國分

つくのうら
なり

薩摩國分

よもぎおおすくのう

うくの漆

奥小濱（おくのこはま）いりうら濱

名まよ義我治の花奥なと

まりうり

義我（よしまさ）公（こう）の奥州（おうしう）鹽竈（しおがま）に義（よし）を年廣（としひろ）

親（ちか）王（おう）芦屋（あしや）

筑前國分

小濱（こはま）

黒の杜（もり）といふあり

おろの漆（うるし）とはおのれ

水くきの黒き漆 右乃（みぎの）ごとく

なとまりうり又ゆくさの黒の

那（な）とうふ汁（しる）

新

不入
為の景濱
海こゑ三里乃濱より梅貝

松浦の玉島川より
我いおれとまりて
白川名ある
緒方義方
肥おの
肥おの
肥おの

本所ちかき
いてはなさ
橋の雪　杉
のみどり
海と空と
雪ふり
への大こ
橋のあ
作よハや

松浦
浦の
松浦川又
川もと也
大雪大寒

此雪火　杉浦　筥崎一所と中し
浦氏物語
そこの
好よ
ものと

君ま
橋の

杉浦
て吹二

…海まで七里 東の方
…竹数の浦 里 東の方 並松十里
…人家竹の浦と云 里へ入口
…のかたより 入口より
…美濃の国 廉 …時刻 宿入口
…海まで 又府中まで
…松まで
…山陰より八ケ国

…伊波國 今
…大和の …宿まで
…かたより 東の方
…の里まで 東の方
…へくれば 山
…里程六里 …山
…過ぎて 里
…里なり あ
…和名三十三カの内 …

小栗 関の清水 岩井 海人

寄せ
寺にて
ち有こと
にて堂の
宮たり
りの十
より一灯
灯にて
仏毎の

[illegible]里あまりなりこの海辺
[illegible]にそひて[illegible]
[illegible]より
[illegible]塩浦　松本浦
[illegible]水口[illegible]浦
[illegible]浦　鴨[illegible]
[illegible]浦　おま[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]のうつくしさ
井堤のもみぢなりけり
[illegible]
朝霧
朝霧の[illegible]
秋風に吹きまよはせる
二見浦　伊勢
[illegible]
[illegible]
[illegible]

石見國分
いはみ こくぶん
石見海　浜有松よろづ木立
いはみのうみ
つゞく海のうら也
松まつ並なみ
つゞく所ところ
なるの
なる角山
すみ
並松大海
なみまつおほうみ
向の浜
むかひのはま

松むらくさ
なるところ
石見のやつめ
なる角山
すみ
右ここまで
海道より
高山
たかやま
なりし
松まつ
並なみ
つゞく所ところ
なるの
なる角山
すみ
砂の峯
みね
月
つき
の
松
まつ
浦
うら
なてしこ
名草
なくさ

加賀國分
蓮浦 越中
富より二里あまりゆけば
の境なり此の浦に入江あり
向へわたし六七丁ばかりの海邊
松ども浜あまたあり
の詠あり
羅漢寺近くありや委曲

の八月うまのかみ
和歌山 数波の里 ところ山のふもと
りくつす 雨ふりつゞきたり
日数ふりつゞきたる雨の中に
八月の廿日ころの雨ふりのやみて後ふと
時鳥の声を聞山にやまとゞりして
ゆきかへりの月に吟ず
ゆく雲に雨ふりまさるうき身の
こゝろ味まつけて

[illegible]

奈良海 浦江沖のむら一冊

乙亥山 気比の
の関ふさがれ
へつゝも

寛文十三年
子歳初春吉日